



2020年2月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年10月8日

上場会社名 株式会社 吉野家ホールディングス

上場取引所 東

コード番号 9861 URL <http://www.yoshinoya-holdings.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河村 泰貴

問合せ先責任者 (役職名) グループ財務経理本部長 (氏名) 鶴澤 武雄

TEL 03-5651-8800

四半期報告書提出予定日 2019年10月9日

配当支払開始予定日

2019年11月6日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年2月期第2四半期の連結業績(2019年3月1日～2019年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年2月期第2四半期	107,066	6.7	2,936		3,023	808.6	1,879	
2019年2月期第2四半期	100,339	2.7	55	97.4	332	86.4	850	

(注) 包括利益 2020年2月期第2四半期 1,698百万円 (%) 2019年2月期第2四半期 1,232百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年2月期第2四半期	29.10	
2019年2月期第2四半期	13.18	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年2月期第2四半期	126,667	50,103	39.1
2019年2月期	112,685	50,025	43.9

(参考) 自己資本 2020年2月期第2四半期 49,523百万円 2019年2月期 49,445百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年2月期		10.00		10.00	20.00
2020年2月期		10.00			
2020年2月期(予想)				10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年2月期の連結業績予想(2019年3月1日～2020年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	208,000	2.8	1,000	855.0	1,500	329.0	100		1.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年2月期2Q	65,129,558 株	2019年2月期	65,129,558 株
期末自己株式数	2020年2月期2Q	517,444 株	2019年2月期	555,888 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年2月期2Q	64,588,744 株	2019年2月期2Q	64,558,382 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 4
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 10
(継続企業の前提に関する注記)	P. 10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 10
(会計方針の変更)	P. 10
(追加情報)	P. 10
(セグメント情報等)	P. 11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2019年3月1日から2019年8月31日まで)の連結業績は、連結売上高が1,070億66百万円(前年同期比6.7%増)、連結営業利益29億36百万円(前年同期比28億81百万円増)、連結経常利益30億23百万円(前年同期比26億90百万円増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は18億79百万円(前年同期比27億30百万円増)と増収・増益となりました。

売上高は前年同期に対して67億26百万円の増収となりました。これは主力事業である吉野家が好調に推移したことや、吉野家以外の国内セグメントの既存店売上高が堅調に推移したことに加え、積極的に出店を進めている、はなまる・京樽および海外セグメントの売上高が増加したことによるものであります。前期に続き、水産物などの食材価格の上昇や、アルバイト・パート時給の上昇による人件費の増加など、厳しい環境が続いておりますが、増収効果がコスト増を上回り増益となりました。

当期は、吉野家において新サービスモデルへの転換を80店規模で計画し、客層を広げながら売上高の向上を図ってまいります。また、はなまる・京樽および海外セグメントにおいては出店による成長・規模拡大を引き続き進めてまいります。

セグメント概況につきましては、次のとおりであります。

[吉野家]

売上高は、547億14百万円と、対前年同期比7.6%の増収となりました。

増収の主な要因は、既存店売上高が好調に推移したことであり、創業120周年を迎えた当年度は、牛肉関連商品を定期的に販売し、従来からの牛丼ファンの来店頻度向上を図ってまいります。その一環として、3月には28年ぶりとなる牛丼の新サイズ「超特盛」「小盛」を、5月にはコラボ商品「ライザップ牛サラダ」を、8月にはサーロインを使用した「特撰すきやき重」を販売いたしました。販売施策としては、4月にご好評をいただいている、はなまるとのコラボ企画「吉野家80円引き!定期券」を発売し、6月は「テイクアウト80円引き」キャンペーンを、7月には「夏休みお子様割」を実施いたしました。加えて、宅配需要の開拓を目的に、宅配サービス対応店舗を積極的に拡大し、8月末の対応店舗数は387店となりました。これらの結果、既存店売上高前年比は106.9%と好調に推移しました。また、新サービスモデルへの転換を進め、当四半期末では57店舗となりました。今後も継続して転換を進めてまいります。セグメント利益は、増収により、32億89百万円と、対前年同期比164.6%の増益となりました。同期間の店舗数は、19店舗を出店し、18店舗を閉鎖した結果、1,211店舗となりました。

[はなまる]

売上高は、158億96百万円と、対前年同期比7.3%の増収となりました。

増収の主な要因は、積極的な出店に伴い店舗数が増加したことに加え、価格改定や商品施策により既存店売上高が堅調に推移したことであり、販売施策として4月に吉野家とのコラボ企画「天ぶら定期券」を、6月には「500店舗、ありがとうキャンペーン」を、8月には「お子様割キャンペーン」を実施し、新規顧客の獲得と既存顧客の来店頻度の向上を図りました。商品施策としては季節商品として、4月には「濃厚豆乳担々うどん」を、6月には「とろ玉ぶっかけ」を、8月には「冷やしごま担々うどん」を販売し、女性のお客様からの支持を獲得いたしました。今後もお客様満足度の向上につながる販売促進および商品開発に努めてまいります。セグメント利益は、増収により、12億8百万円と、対前年同期比57.2%の増益となりました。同期間の店舗数は、6店舗を出店し、6店舗を閉鎖した結果、512店舗となりました。

[アークミール]

売上高は、102億59百万円と、対前年同期比0.7%の減収となりました。

減収の主な要因は、閉鎖に伴い店舗数が減少したことであり、既存店客数の回復のため、販売施策として、「肉の日」において、特別価格での商品提供に加え、継続来店に繋がるよう「ランチタイム定期券」「ステップアップクーポン」を配布いたしました。また、4月には「ステーキのどん」において、「映画クレヨンしんちゃん」とのコラボ企画を実施いたしました。商品施策としては、7月に「ステーキのどん」においてボリューム満点の「激アツステーキ」を販売し、ご好評をいただきました。また、「しゃぶしゃぶどん亭」や「フォルクス」においても、ランチメニューの

改定や季節のフェアメニューを販売いたしました。これらの施策により、既存店売上高が堅調に推移したことから、セグメント損失は、2億39百万円と、前年同期に比べ損失額が1億3百万円の減少となりました。同期間の店舗数は、8店舗を閉鎖した結果、163店舗となりました。

[京樽]

売上高は、143億10百万円と、対前年同期比4.6%の増収となりました。

増収の主な要因は、既存店売上高が堅調に推移したことに加え、都心を中心に積極的に出店を行っております回転寿司業態「海鮮三崎港」の店舗数が増加したこととあります。販売施策としては、ご好評をいただいているテイクアウト事業における「中巻セール」、ひな祭りや母の日、父の日などの“ハレの日”の各セール、外食事業における「本まぐろ祭」「(赤皿)99円セール」などを効果的に実施いたしました。商品施策としては、カツオ・ウナギ等、旬の食材を用いた「季節メニュー」を各業態で販売いたしました。また、炊飯米の販売やインターネットサイトを利用した弁当販売も拡大しております。セグメント利益は、増収により、3億31百万円と、対前年同期比74.6%の増益となりました。同期間の店舗数は、7店舗を出店し、8店舗を閉鎖した結果、332店舗となりました。

[海外]

売上高は、108億4百万円と、対前年同期比5.8%の増収となりました。

増収の主な要因は、アメリカの売上高が堅調に推移したことや、フランチャイズも含めた積極的な出店により店舗数が増加したこととあります。セグメント利益は、一部エリアでは原材料価格の高騰による影響がありましたが、出店による増収などにより、5億39百万円と、対前年同期比71.4%の増益となりました。同期間の店舗数は、66店舗を出店し、21店舗を閉鎖した結果、968店舗となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ139億81百万円増加し、1,266億67百万円となりました。

これは主として、現金及び預金が65億77百万円増加したこと、および、IFRSを適用している在外連結子会社のIFRS第16号「リース」の適用による使用権資産30億20百万円の計上によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ139億3百万円増加し、765億63百万円となりました。これは主として、流動負債の1年内返済予定の長期借入金30億33百万円、固定負債の長期借入金15億97百万円それぞれ増加したことに加え、IFRSを適用している在外連結子会社のIFRS第16号「リース」の適用等により、リース債務(流動)が13億13百万円、リース債務(固定)が48億39百万円増加したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ78百万円増加し、501億3百万円となり、自己資本比率は、前連結会計年度末比で4.8ポイント減少し39.1%となりました。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

また、IFRSを適用している在外連結子会社のIFRS第16号「リース」の適用に関する詳細は、(会計方針の変更)に記載しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期連結業績については、上期業績は好調に推移したものの、国内外の政治経済環境の変動により様々な影響を今後の業績に及ぼすことが想定され、予断を許さない状況であります。国内においては10月に行われた消費増税・軽減税率の導入、海外においては米中貿易摩擦や展開地域における地政学的リスク増大などの影響や、日米貿易協定による原材料価格等々の業績動向の不透明感が増大しており、それらを踏まえ、通期連結業績予想については現時点では、前回発表数値の修正は行なわないことといたしております。これらの与件等々が業績に与える影響を見極め次第、修正が必要と判断した場合は改めて開示する予定です。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,971	23,549
受取手形及び売掛金	5,829	6,442
商品及び製品	2,818	3,134
仕掛品	52	75
原材料及び貯蔵品	3,475	4,534
その他	4,283	3,407
貸倒引当金	△7	△8
流動資産合計	33,424	41,133
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	27,220	28,133
使用権資産	-	3,020
その他（純額）	19,014	20,587
有形固定資産合計	46,234	51,742
無形固定資産		
のれん	1,244	1,975
その他	2,910	3,306
無形固定資産合計	4,155	5,282
投資その他の資産		
投資有価証券	5,320	4,520
差入保証金	15,798	15,849
繰延税金資産	2,663	2,746
その他	5,164	5,448
貸倒引当金	△76	△55
投資その他の資産合計	28,870	28,508
固定資産合計	79,260	85,533
資産合計	112,685	126,667

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,607	7,192
短期借入金	6,087	6,215
1年内返済予定の長期借入金	5,031	8,064
リース債務	1,352	2,666
未払法人税等	517	950
賞与引当金	1,319	1,465
役員賞与引当金	24	8
株主優待引当金	292	301
資産除去債務	84	58
その他	10,938	11,716
流動負債合計	31,255	38,641
固定負債		
長期借入金	23,586	25,184
リース債務	3,471	8,310
退職給付に係る負債	629	627
資産除去債務	2,828	2,932
その他	888	866
固定負債合計	31,404	37,922
負債合計	62,659	76,563
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,265	10,265
資本剰余金	11,497	11,505
利益剰余金	30,944	31,145
自己株式	△682	△636
株主資本合計	52,024	52,280
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△6	△11
為替換算調整勘定	△2,547	△2,721
退職給付に係る調整累計額	△25	△23
その他の包括利益累計額合計	△2,578	△2,757
非支配株主持分	579	580
純資産合計	50,025	50,103
負債純資産合計	112,685	126,667

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年3月1日 至2018年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年8月31日)
売上高	100,339	107,066
売上原価	35,922	37,541
売上総利益	64,416	69,524
販売費及び一般管理費	64,361	66,588
営業利益	55	2,936
営業外収益		
受取利息	17	25
受取配当金	125	47
賃貸収入	171	172
持分法による投資利益	61	47
雑収入	362	442
営業外収益合計	737	735
営業外費用		
支払利息	84	264
為替差損	66	76
賃貸費用	112	130
雑損失	196	178
営業外費用合計	460	649
経常利益	332	3,023
特別利益		
固定資産売却益	0	5
特別利益合計	0	5
特別損失		
減損損失	511	231
契約解約損	8	4
特別損失合計	520	235
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△187	2,793
法人税、住民税及び事業税	397	990
法人税等調整額	307	△79
法人税等合計	705	911
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△892	1,881
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△42	1
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△850	1,879

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△892	1,881
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6	△5
為替換算調整勘定	△272	△120
退職給付に係る調整額	1	1
持分法適用会社に対する持分相当額	△61	△58
その他の包括利益合計	△339	△183
四半期包括利益	△1,232	1,698
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,181	1,701
非支配株主に係る四半期包括利益	△50	△3

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△187	2,793
減価償却費	3,183	3,776
のれん償却額	105	112
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△28	△22
賞与引当金の増減額(△は減少)	△265	138
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△8	△15
株主優待引当金の増減額(△は減少)	9	9
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△17	△1
受取利息及び受取配当金	△142	△72
支払利息	84	264
持分法による投資損益(△は益)	△61	△47
固定資産売却損益(△は益)	△0	△5
減損損失	511	231
売上債権の増減額(△は増加)	1,396	△449
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,241	△1,402
仕入債務の増減額(△は減少)	459	1,482
未収入金の増減額(△は増加)	89	△97
未払消費税等の増減額(△は減少)	△432	472
その他	△692	1,008
小計	2,762	8,175
利息及び配当金の受取額	150	74
利息の支払額	△81	△254
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△1,685	363
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,146	8,358

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△7	△7
定期預金の払戻による収入	462	87
有形固定資産の取得による支出	△4,159	△3,786
有形固定資産の売却による収入	38	330
無形固定資産の取得による支出	△415	△1,139
無形固定資産の売却による収入	-	97
資産除去債務の履行による支出	△53	△70
差入保証金の差入による支出	△366	△373
差入保証金の回収による収入	216	302
貸付けによる支出	△266	△26
貸付金の回収による収入	120	47
関係会社株式の取得による支出	△809	△5
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	△110
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	-	122
その他	-	14
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,241	△4,517
財務活動によるキャッシュ・フロー		
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△626	△827
短期借入金の純増減額 (△は減少)	512	127
長期借入れによる収入	6,500	7,030
長期借入金の返済による支出	△3,349	△2,769
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	-	△17
配当金の支払額	△643	△648
その他	△1	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,391	2,895
現金及び現金同等物に係る換算差額	△118	△53
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,822	6,682
現金及び現金同等物の期首残高	19,573	15,660
現金及び現金同等物の四半期末残高	17,750	22,343

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

在外連結子会社

(IFRS第16号「リース」の適用)

当社グループのIFRS適用子会社は、第1四半期連結会計期間より、IFRS第16号「リース」(2016年1月公表)を適用しております。これにより、借手としてのリース取引については、原則としてすべてのリースについて資産及び負債を認識しております。

本基準の適用にあたっては、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

この結果、第1四半期連結会計期間の期首の使用権資産が32億15百万円増加、リース債務(流動)が14億7百万円増加、リース債務(固定)が28億80百万円増加、非支配株主持分が39百万円減少、利益剰余金が10億33百万円減少しております。なお、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。なお、前連結会計年度の連結貸借対照表は当該会計基準の改正等を遡って適用した後の数値となっております。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年3月1日 至 2018年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	吉野家	はなまる	アーク ミール	京樽	海外	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	50,361	14,683	10,300	13,596	10,212	99,155	1,184	100,339	—	100,339
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	480	138	36	88	—	743	287	1,031	△1,031	—
計	50,842	14,821	10,336	13,685	10,212	99,898	1,471	101,370	△1,031	100,339
セグメント利益 又は損失(△)	1,243	769	△343	190	314	2,173	10	2,183	△2,128	55

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社9社を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,128百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,174百万円、セグメント間取引消去131百万円及びのれんの償却額△85百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	吉野家	はなまる	アーク ミール	京樽	海外	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	54,195	15,757	10,215	14,221	10,804	105,195	1,870	107,066	—	107,066
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	518	138	43	88	—	789	464	1,253	△1,253	—
計	54,714	15,896	10,259	14,310	10,804	105,985	2,334	108,319	△1,253	107,066
セグメント利益 又は損失(△)	3,289	1,208	△239	331	539	5,130	60	5,190	△2,254	2,936

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社14社を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,254百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,298百万円、セグメント間取引消去134百万円及びのれんの償却額△89百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。